

阿久根大島

あくねの魅力

あくねの特産

あくねの暮らし

あくねの魅力

あくねの特産

あくねの暮らし



AKUNE OSHIMA

阿久根大島は、阿久根新港渡船場から船で約10分、約2kmの沖合に浮かぶ周囲4kmの美しい松林におおわれた島です。対岸の海岸線などとともに「県立自然公園」、「日本の名松100選」に指定。島内では野生の鹿と触れあえるほか、海水浴や釣りのメッカとなっており、本市を代表する観光スポットです。また、天気の良い日は甌島や長島、天草まで見渡せます。

Akune Oshima is an island covered with a beautiful pine forest, with a circumference of 4 kilometers and located approximately 2 kilometers offshore. The island is accessible by boat, which takes about 10 minutes from Akune New Port ferry terminal. Coupled with the coastline on the city side, the whole area is designated as both a "Prefectural Natural Park" and as one of the "100 Best Pine Trees in Japan". The island is a mecca for sea bathing and fishing, as well as a habitat for wild deer with which visitors can interact, making it one of top tourist spots in the city. On a clear day, you can also see far islands such as Koshikishima, Nagashima, and Amakusa.



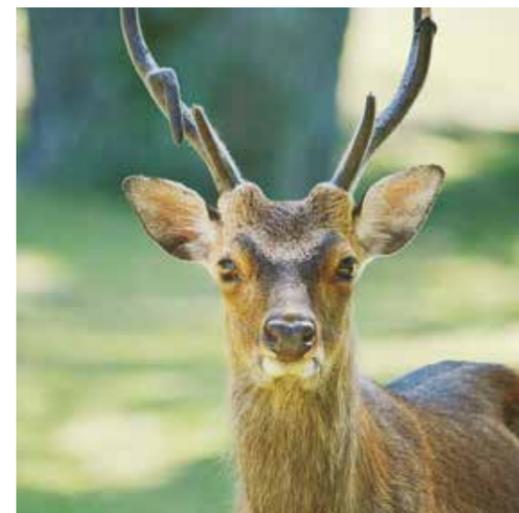
阿久根大島海水浴場（水質：AA）

快水浴場百選



最高ランク「水質AA」の美しい海。夏期には海水浴客で賑わい、ビーチにはシャワー室・トイレ・ロッカールームなどの設備も完備。シュノーケリングや水上バイクなどのマリナクティビティも充実し、各用具の貸出サービスも行っています。

阿久根大島の鹿



島内に生息する鹿は江戸時代の初め（1660年頃）に薩摩藩2代藩主・島津光久が放したことが始まりとされています。明治時代に一時は絶滅してしまいましたが、大正時代になると阿久根村（当時）が再び鹿の棲む島にしようと動きまします。馬毛島（種子島の近くの小島）から6つがいの鹿を連れてきて放ち、現在に至ります。

阿久根大島公園キャンプ場



バンガローや海の家・キャンプ場も整備されています。思いきり海水浴を楽しんだあとは、島内に宿泊してさらに阿久根大島の自然を満喫。東シナ海に沈む燃えるような夕陽、夜には満天の星も見るすることができます。キャンプ用具やバーベキュー用具のレンタルもあります。

あくねの歴史

あくねの紹介

あくねの歴史

あくねの紹介



あくねのビーチ Beach

脇本海水浴場

脇本海水浴場 (水質: AA)

県立自然公園指定 / 快水浴場百選

約3km続く遠浅の白い砂浜が広がります。海水浴はもちろんのこと、アウトドアやサーフィンなどを楽しんだりすることもできます。また、5月～8月にかけてウミガメが産卵のために上陸。市民による保護活動も行われています。



大川島海水浴場

県立自然公園指定

雄大な大自然のパノラマが広がる波静かな入江のビーチ。のんびり海水浴を楽しみたいファミリー層や美しい砂浜で散歩を楽しみたい方に人気です。海水浴に加え、マリンスポーツや磯釣りなども楽しめます。付近一帯はリアス式の屈曲した海浜地帯になっており、近隣には景勝地の牛之浜海岸もあります。

あくねの花

Flower



ハマジンチョウ

開花時期: 1月～5月頃

潟地区に自生し、約3cmの薄紫色の花を咲かせます。本市は九州本島では唯一の自生地があり、県の天然記念物にも指定されています。



カノコユリ

開花時期: 6月～7月頃

大川地区の線路沿いに約1,000本が植栽されています。もともと自生していた株を近くに住む有志の方々が手入れをして増やし、今では名所として知られています。



黒之瀬戸

日本三大急潮の一つでもある黒之瀬戸は、阿久根市と長島町間の幅約500mの海峡です。渦巻く潮はその昔「隼人の瀬戸」と呼ばれ、「万葉集」にも収録されています。また、黒之瀬戸は万葉集の中で詠まれた最南端の地となっています。

隼人の薩摩の瀬戸を雲居なす遠くも
我は今日見つるかも

長田王

時の天皇の命令で九州に下った長田王がこの地に赴き、薩摩の瀬戸を、私は今日のはるか彼方に眺めていることだなあと、遠い地に来たものだという深い感慨を歌に詠みました。

牛之浜海岸

県指定名勝 県立自然公園指定

東シナ海の荒波が作り上げた景勝地で、県指定名勝に指定されており、奇岩や岩礁の多い美しい海岸。この地を訪れた江戸時代末期の学者・頼山陽は「阿嶋嶺」と題した漢詩を残しています。

「阿嶋嶺」 頼山陽
危礁乱立大瀉間 決皆西南不見山
鷗影低迷帆影没 天連水処是台湾

奇岩怪石が波間に乱れ立っている。目を見張って遠く西南を眺めると、海水が渺茫(びようぼう)として山一つ見えない。ただ鳥の影が水面すれすれに旋回していて、先ほどまで見えていた白帆の影もいつしか水平線の彼方に消えてしまった。天と水が一つに連なっているところ恐らくあの辺りが台湾だろう。



Superb view

あくねの絶景



にぎわい交流館 阿久根駅

肥薩おれんじ鉄道の阿久根駅は、平成26年(2014年)に「にぎわい交流館 阿久根駅」としてリニューアルオープン。昭和24年(1949年)建造の駅舎を残しながら、木材をふんだんに使用したモダンなデザインに全面改修しました。コンセプトは「まちの迎賓館」、「まちの公民館」。デザインは水戸岡鋭治氏。駅舎内ホール(待合所)ではジャズライブや展示イベントなど多彩な催しが行われ、芸術・文化に気軽に触れる場所となっています。また、平成30年(2018年)11月には阿久根をロケ地とした映画「かぞくいる」も制作され、全国的な知名度も高まりつつあります。

Akune Station on the Hisatsu Orange Railway was renovated and reopened as the Bustle Exchange Center Akune Station in 2014. While retaining the original building built in 1949, the station has been completely renovated to accommodate natural wood and a modern design. The concept is a city "guesthouse" and "community center." Mitooka Eiji contributed to the design. The hall/waiting area in the station hosts a variety of events such as live jazz and exhibitions. It is a place where people can freely experience art and culture. In addition, in November 2018, the movie "Our Departures (Original title: Kazokuiru)" was filmed in Akune, which has helped the city increase its recognition nationwide.



Message
阿久根の玄関口であるとともに、阿久根の食材を利用した食堂・カフェや、ホールを活用したイベントなど大きな可能性を持った場所です。駅利用者拡大と可能性拡大を目指して、ジャズライブをはじめとするイベントを企画。鉄道の利用者だけでなく、多くの方に来ていただいています。駅活用の可能性も市民に認知されつつあります。今後も、地元の学校と連携したものなど、楽しい企画でもてなしていきたいです。
株式会社あくねや 徳丸 尚樹さん

阿久根市民交流センター 風テラスあくね

文化芸術及び生涯学習の活動拠点の場として、平成30年(2018年)に新たにオープンした「阿久根市民交流センター」愛称「風テラスあくね」。541席のホールと5室の交流室などで構成されています。

ホール下手花道側には自然光を取り入れられる大きな開口を設け、上手側は2階席へとつながる階段席、2階サイドとフロントにもバルコニー席を設け特色のある構造です。交流室は日常的な利用促進のために、積極的に外光を取り入れ、さまざまな会議やセミナーなどに利用されています。

The Akune Citizen's Exchange Center, also known as Kaze Terrace Akune, was newly opened in 2018 as a central base for cultural arts and lifelong learning activities. It consists of a 541-seat hall and five social activity rooms. Inside the hall, there is a large opening on the left side of the lower seats to let in natural light. To the right, there are stairway seats, which lead up to the balcony, where additional seating is available. Natural light is also utilized in the social activity rooms. Various meetings and seminars are regularly held in these rooms.



あくねの温泉

ひさご旅館



栄屋旅館



ビジネスホテル ロックスイン



きみよし温泉



ビジネスホテル クアドーム



阿久根の温泉の特徴は、沿岸部にあり殆どの泉質が塩化物泉で塩分濃度が高いことから、人々から「塩湯」として親しまれています。またポンタンの地として有名なことから冬の時期（12月下旬～2月下旬）にはポンタンを浮かべる施設もあり、「ポンタン湯」として冬の風物詩となっています。

塩湯やポンタン湯は、血行促進と保温効果によく美人の湯としても知られています。

かごしま・あくね海の駅

阿久根の自然豊かな海を生かしたマリレジャーを楽しむ拠点として、平成28年（2016年）にオープンした「かごしま・あくね海の駅」。国土交通省により、「いつでも、誰でも、気軽に安心して立ち寄り憩うことのできる場所」として登録された海の駅。2隻の停泊が可能で、港湾施設の棧橋にヨットやプレジャーボートを係留して周辺の観光を楽しむことができる海の交流地点です。

サンセットロード

阿久根新港の一角にあるサンセットロード。ボードウォークになっており、海に沈む夕日や阿久根大島などの絶景を見渡すことができます。夕暮れ時のウォーキングなどにも使われ、夕日を見ながらの散歩など、一日をリフレッシュすることができる憩いの場として楽しむことができます。



番所丘公園



市の南西部の丘陵地帯に整備された都市公園。広大な芝生の広場、子供向けの遊具が揃った広場などがあり、季節の花々も楽しめます。さらに1.2kmのゴーカートコース、バタゴルフコース、ローラースケート場などもあり、家族連れにも人気です。阿久根の海や市街地など、全方向を見下ろせるビュースポットでもあります。

あくねの七不思議

黒神岩（くろかみいわ）

海岸線から500m～600m程離れたところに、海岸に見られるような巨大な岩が立ち並んでいます。この岩を黒神岩と呼びますが、岩には貝の化石が付いていることから、昔のあたりが海であった頃の名残と言われています。以前は付近一帯広々とした水田でしたが、現在では公園として整備されています。

佐瀧の洞窟（小瀧崎穴：さがたさきけつ）

東シナ海に突き出た佐瀧半島の中ほどにある洞窟です。入口は狭く、人がようやく屈んで通れるほどですが、中は広くなっており、いくつもの分かれ道が連なっています。昔の穴住居だとも言われ、伝説によると、甕島に続いているとも言われています。

大人（おおひと）の足跡（天狗の足跡）

山下地区の八幡神社前にある大きな石に、長さ60cmほどの足形のくぼみがあり、伝説によると、この地方に住んでいた大人（天狗）が、村人にけしかけられて阿久根大島まで跳ぼうとした時にできた足跡と伝えられています。

隔岡（おかごし）の塩田

縄文海進時（約7000年前）に浸水してきた海水が、その後の海退により干上がってきた塩田と言われています。また、江戸時代初期から、瀧一帯は海岸から遠く離れているにもかかわらず、地底から塩水が湧き、良質の塩がつくれる塩田であり、旅の僧（弘法大師とも言われる）によって製塩法を教えられたと伝説が残っています。現在は瀧区に塩釜神社として祀られています。

岩船（いわふね）※写真は鍋石

その昔、舵が折られた船が折口海岸に流れ着き、そのまま岩になったと伝えられています。現在は打ち寄せた砂で埋没して見ることができません。また、梶折鼻、鍋石、筒田、餅井などは、この岩船伝説に由来した地名と言われています。写真は船に積んであった大鍋が流れ着き、石になったとされる鍋石です。

尻無川（しりなしがわ）

大川地区を流れるこの川は、河口が海岸から砂礫で塞がれ、尻無（＝出口の無い）川と呼び、この地区を尻無地区と呼ぶようになりました。

光礁（ひかるぜ）

戸柱山前の海岸にある大きな岩礁で、不思議な光を発することから、光礁と呼ぶようになったと伝えられています。

「光礁の光る心を 人とはば神のみたまと吾はこたへん」 八田知紀

また、光礁と隣接する五色浜のチャート層は、県本土で最も古い層であり、学術的に貴重なことから、令和2年度に県指定文化財（天然記念物）に指定されています。

★各地の詳しい位置はP38のMAP参照

